ボブジテン

プレイ人数 3人〜8人　**プレイ時間** 約30分　**対象年齢** 10歳以上

内容物

お題カード
36枚

表面
6種類のお題

裏面
1〜6いずれかの数字

ストーリー

日本語大好きな僕らの友人、ボブ。彼は日本語を勉強する中で、多くの外来語が日本語には訳されず、カタカナ語として定着していることに気付いた。日本語辞典で調べても、カタカナ語の説明にカタカナ語が使われている始末。『だったらカタカナ語を日本語だけで説明する辞典を自分で作ろう!』そんな考えから、ボブジテン作りは始まった。僕らは、そんな彼の試みに協力することにした。

ボブは辞典に載せるカタカナ語を、カタカナ語を一切使用せず説明をしていきます。みんなはボブが何の説明をしているか考えて、答えましょう。うまくみんなに伝われば、無事にボブジテンに記載されていきます。みんなでボブジテンを完成させましょう!

❄もしカタカナ語を使ってしまったら・・・

カタカナ語を使ってしまった事に気づいたら、周りのプレイヤーは指摘をしましょう。
最初に指摘をしたプレイヤーはお題を出したプレイヤーの手札のカードを得点にし、次のお題を出す番になります。

❄もし誰も正解を答えられなかったら・・・

お題カードは捨て札にして、同じプレイヤーは新しいカードをめくって再チャレンジします。

カタカナ語とは

・外来語、またはその略語（例）ゲーム、チョコレート、テレビ
・和製英語（例）サラリーマン、ペットボトル
・英語の音訳に漢字を当てはめたもの（例）珈琲、煙草

カタカナで表記されるが日本語であるものは、カタカナ語としません。（例）メガネ、イス、スイカ

例：お題「ビール」
　　−大人の麦芽飲料
＊ここで、カタカナ語である「アルコール」や「ドリンク」などは使えません。

ゲームの準備

・お題カードすべてをよくシャッフルし、裏向きに山札を作ります
・ボブの大親友だと自負するプレイヤーからスタートします
（ボブの大親友がいない場合は、適切な方法でスタートプレイヤーを決めてください）

ゲームの手順

3番がお題

1. スタートプレイヤーはお題カードの山札の一番上のカードをめくり、他のプレイヤーにお題が見えないように手札として持ちます
2. カードには6つのお題が書かれていますが、どのお題を出すかはお題カードの山札の一番上にあるカードの数字と一致する数字により決まります
   一切のカタカナ語を使わずに、ほかのプレイヤーに伝わるように説明をしてください
3. 各プレイヤーは一度だけ回答のチャンスがあります。どのタイミングでも結構です、先にお題を当てたプレイヤーが得点となります
4. お題を出したプレイヤーは手札のカードを得点に。お題を当てたプレイヤーは、お題カードの山札の1番上のカードを得点にします
   得点にしたカードは各プレイヤーの前に置くようにします
5. お題を当てたプレイヤーが次のお題を出します（ゲームの手順1〜4を繰り返す）
6. 残りのお題カードの山札が1枚以下になった時のお題で解答を最後まで行うとゲーム終了です

特殊カード『トニーが来た』

トニーはボブと同じく日本語を勉強中。トニーもボブジテン作りに加わります。トニーもカタカナ語をうまく日本語に訳そうとしますが、実は日本語はまだボブほど得意ではない様子。単語を並べて説明するのが精一杯。
「トニーが来た」が書かれたカードが出てきたら、プレイヤーは単語のみを並べて説明をしましょう。
「てにをは」などの助詞は使えません。

例：お題「パンダ」の時に『トニーが来た』カードが出た場合。
　　−中国、白黒、熊
＊ここで、中国“の”動物など、“助詞”を使うことはできません。助詞とは簡単に言えば、単体では具体的な意味を持たず、他の語に付属するもののことです。

得点計算

得たカード1枚が1点となります。
合計点数が最も高いプレイヤーの勝利です。
同点の場合は、ボブの故郷アメリカに近い方に住んでいるプレイヤーの勝利です。

ゲームデザイン：Kazuna*
http://tukaponbg.blog.fc2.com/
アートワーク：decoctdesign
http://decoctdesign.com/